

研究タイトル：

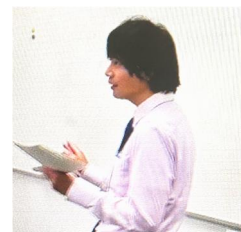
日本近現代における文学・思想の研究

氏名： 花澤 哲文／HANAZAWA Tetsufumi E-mail: t-hanazawa@kure-nct.ac.jp
職名： 准教授 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 日本近代文学会

キーワード： 日本近現代文学、日本思想史、高山樗牛、高坂正顕、西村賢太、国語教育

技術相談
提供可能技術：
・日本近現代における人文学に関する講演・講座
・国語教育(現代文)に関する講演・講座
・キャリアデザイン(基礎日本語)とリベラルアーツに関する講義
・文芸批評や地域史などの人文学に関する執筆



研究内容： ① 高山樗牛研究 ② 京都学派研究 ③ 現代「私小説」研究

① 高山樗牛研究 —高山樗牛の「瀧口入道」・歴史劇論争・歴史画論争—

明治日本において「天才」の名をほしいままにした高山樗牛(1871-1902)の研究をしています。樗牛は同世代の夏目漱石をして「何の高山の林公(本名・林次郎)など」と嫉妬させたほど、一世を風靡した最初の「知」のカリスマでありました。しかし、樗牛は31歳にて早世、第二次世界大戦後は急速に忘れられていきます。文芸評論家の保田與十郎は「樗牛の文学者としての全生涯は十年余であつたが、その短い期間に於て文明開化期の文人の思想的生涯を殆ど経験したやうな人であつた」と述べています。近年、樗牛に関する書籍の上梓が相次ぎ研究は進展しつつあります。

【執筆者の研究】 1 『高山樗牛 —歴史をめぐる芸術と論争—』 翰林書房 2013 年
2 『高山樗牛研究資料集成』全九巻(編・解説) クレス出版 2014 年
3 『リプリント日本近代文学 西宮藤朝「哲人 高山樗牛」』(解題) 平凡社 2016 年

② 京都学派研究 —高坂正顕の歴史哲学—

日本最初の独創的哲学者である西田幾多郎は京都大学で教鞭を執り、幾多の個性的な弟子を育てました。その学統は「京都学派」と呼ばれ、現在の日本哲学の源流をなしています。執筆者はそのうちのひとりである高坂正顕をテーマに据えました。高坂哲学の中核は西田哲学とカント哲学より理論形成されており、また現実社会においても深く実践的でありました。その実践の部分は、日本の敗戦ともかわり賛否両論ありますが、現代思想において無視できない影響力と可能性を蔵しています。

【執筆者の研究】 1 『高坂正顕 —京都学派と歴史哲学—』 燈影舎 2008 年
2 『近現代日本人物史料情報辞典』第四巻「高坂正顕」項目 吉川弘文館 2011 年

③ 現代「私小説」研究 —西村賢太の生と死を見つめて—

「私小説家」であることに徹底的にこだわって生きた西村賢太氏は 2022 年に急逝されました。西村氏と親交のあった執筆者は、生前の西村氏との「距離」から、まずは氏の昵懇者のみが知る素顔を記録しておくことにしました。研究には対象を客観視できるだけの「距離」が必要となるからです。そして二年がたち、ようやく学術論文を発表することができました。しかし、それでもなお西村氏の影響力は大きく、良くも悪くも生前の氏によって規定された研究になっているのかもしれないかもしれません。けれども、逆に言えば、実際の西村氏を「知る」執筆者だからこそできる研究もあるのではないかと模索している最中です。

【執筆者の研究】 1 「最初と最後の西村賢太」『本の雑誌』 通巻 468 号 2022 年
2 「「どうで死ぬ身の一踊り」後の我ら」『西村賢太追悼文集』 COTOGOTOBOOKS 2022 年
3 「「私小説家」であるための西村賢太」『日本近代文学』 第 110 集 2024

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)